

先週の水曜日より大齋節に入りました。大齋節は先ほどの福音書にもありましたように、主イエスがユダの荒野で40日40夜断食をされて悪魔の誘惑に遭われましたが、それに打ち勝って悪への勝利を治められたことを覚えて、私たちも特にこの大齋節の40日間、悪への誘惑に立ち向かい、勝利を治めることを意識して取り組むことが勧められています。

また本年は特に、この聖餐式の説教におきまして、わたしたちが毎週ささげておりますこの聖餐式についてお話しをし、毎週日曜日の礼拝につきまして学びを深めますと共に、大齋節の黙想の一つとしていただければと思います。

最初に聖餐式は、主イエスが十字架にかかれる前の夜、エルサレムにありましたマルコ、このマルコは後にマルコによる福音書を記すこととなります人物ですが、このマルコの家の二階で行われた最後の晚餐そのものです。最後の晚餐と言いますとレオナルド・ダビンチが描きました絵が有名でしてわたしたちはその風景を思い浮かべます。ダビンチはそれぞれの背の高さをもって弟子たちの信仰を現したとも言われ、また中央の後ろにあります窓を、当時としては画期的な遠近法を用いて描いた絵としてもよく知られていますが、約2000年前の当時テーブルに椅子で座る習慣はまだありませんでしたので、実際には左側を下にして寝そべり、右手で食事をする習慣だったようです。現在わたしたちが聖餐式を、中央にあります聖卓を中心に、基本的に立って行うのは、初代教会の習慣によるものです。いずれにしましても聖餐式は、この最後の晚餐そのものです。この時主イエスはパンを取り、感謝してそれを裂き、これは私の体であると言って与えられ、食事の後ぶどう酒の入った杯を取り、感謝してから、これは私の血であると言ってお与えになったのです。そして再び主イエスがこの世に来るときまで、常にこれを行いなさいという主イエスの命令に従い、主イエスが復活された記念の日である日曜日に、毎週聖餐式を行っているのです。そして私たち自身もまた、あの最後の晚餐に、時間と距離を超えて共に集い、弟子たちとともに、またすべてのキリスト者と礼拝を共にしているのです。

そしてこの聖餐式は、来るべき天国の祝宴を先取りしたものだということが出来ます。わたしたちが天国に迎え入れられるとき、聖書の記述によれば祝いの祝宴が催され、その時の祝宴こそ聖餐式であるのです。従ってわたしたちは天国の祝宴に、すでに参加していることにもなるのです。

このように聖餐式は、救いを得るために誰にでも必要な神の特別な恵みであり、礼拝の中でも特別に重要な礼拝として位置づけられているのです。聖餐式において司祭が、他の礼拝では用いない特別な式服を用いるのもその位置づけと重要性によるわけです。

さて聖餐式はいつも162ページから始めますので、その前の部分をわたしたちはほとんど見ることはありません。聖餐式は159ページから始まっておりまして、そこに聖餐式の全体的な内容、また聖餐式に出席するに当たっての準備について触れられています。それぞれにつきましてはこれから見ていくことにいたしまして、本日はその大枠の部分について触れていきたいと思っております。

聖餐式はこのように重要な礼拝でありますので、礼拝に臨む準備についても詳細に勧められています。祈祷書の143ページに聖餐準備の式というのがあり、聖餐式の前夕、聖餐準備の集まり、また聖餐式直前に用いることができるかとされています。文語の祈祷書の頃は、聖餐式に先立って朝の礼拝・早祷を用いたり、この聖餐式準備を行ったりすることがよくありましたが、直前の準備のみでは不十分であるということで、準備は前夕または準備の時を別に持つことが望ましいとされ、日曜日は聖餐式単行ということになってきました。しかし多くの教会においては、日曜日の礼拝が聖餐式単行になったのみでその準備のときが十分行われぬのが現実であるのは残念なことです。土曜日の夜、可能でしたらご自宅にて祈祷書を開いていただき、6つあります聖餐準備の式のどれでもけっこうですので、用いていただければと思います。コリントの信徒への手紙1第11章27節に、「ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すこととなります」と書かれており、準備の重要性が語られています。またこの備えの一つとして、堅信式を受けることが陪餐するのに必要な準備と合わせてされているわけです。

聖餐式は、準備のもと、当日聖堂に集った人々が心を合わせてささげる礼拝でありますので、当日礼拝に集う方々がよく心を通わせ、神様へのよき心を持ってささげることが不可欠となります。160ページ下の説明書きの中には、こうしたことへの具体的なことが書かれておりますが、長年教会に来ておられる方も、初めて教会に来られた方も、長いおつきあいの方も短い方も、同じ主に向かい、同じ主を信じて生きていこうとする者であることを、聖堂に入る時からよく心に刻んでおきたいものです。

こうしたこともあり、旅行などで日曜日この川越基督教会以外の教会にて礼拝に出席される場合、少し早めに行っていただき、その教会の牧師に自分は川越基督教会の信徒である旨お伝えいただきたいということが161ページに書いてあります。これは単にその教会の牧師が陪餐を間違えて行わないためではなく、礼拝に出席される方同士よく心を通わせ、神様によい心をもってささげるためにも重要なこととなります。

また他教派の教会に日曜日出席される場合も、同様に少し早めにその教会へ行っていただき、自分は聖公会の川越基督教会の信徒であると牧師へ申し出ていただきたいと思います。現在はローマカトリック教会を含めてほとんどの教会で陪餐をさせていただくことができるようになりました。

そして当教会に他教派の方が出席された場合は、洗礼をお受けの方であれば陪餐をしていただくことになっています。聖公会では洗礼を受けたのみで堅信式をうけておられない方は、必要な準備を終えた後でなければ陪餐できませんが、プロテスタント教会の多くは堅信式の習慣がありません。そして所属教会では陪餐をしておられますので、ゲストとしてお迎えする場合、洗礼を受けておられれば陪餐をしていただくことになっているのです。もし他教会の方が当教会の礼拝に出席され、皆様にご案内して下さる場合は、そのようにお願いしたいと思います。

このように重要であり、また準備が重要な聖餐式について、本日は大卒のお話をさせていただきましたが、今後はそれぞれの内容について特に学び、黙想してまいりたいと思います。